



2022年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年1月28日

上場会社名 中央魚類株式会社
 コード番号 8030 URL <http://www.marunaka-net.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 伊藤 裕康

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部本部長 (氏名) 福元 勝志

TEL 03-6633-3000

四半期報告書提出予定日 2022年2月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	94,509	34.1	1,890	38.9	2,040	29.8	921	7.4
2021年3月期第3四半期	143,448	4.2	1,361	37.6	1,571	40.6	858	80.5

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 1,437百万円 (9.8%) 2021年3月期第3四半期 1,309百万円 (276.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	230.78	
2021年3月期第3四半期	214.83	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期第3四半期	80,133	28,317	29.7	5,965.91
2021年3月期	68,855	27,245	33.6	5,794.48

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 23,831百万円 2021年3月期 23,146百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期				60.00	60.00
2022年3月期					
2022年3月期(予想)				70.00	70.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	110,000		1,700		1,800		800		200.26

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注) 2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用するため、上記の連結業績予想は当該会計基準等を適用した後の金額となっており、対前期増減率は記載していません。

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(会計方針の変更)(収益認識に関する会計基準等の適用)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2022年3月期3Q	4,315,300 株	2021年3月期	4,315,300 株
------------	-------------	----------	-------------

期末自己株式数

2022年3月期3Q	320,654 株	2021年3月期	320,654 株
------------	-----------	----------	-----------

期中平均株式数(四半期累計)

2022年3月期3Q	3,994,646 株	2021年3月期3Q	3,994,823 株
------------	-------------	------------	-------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想等の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症による緊急事態措置が解除された10月以降、宿泊、飲食店等のサービス業に改善がみられました。しかしながら欧米を中心に全世界で新型コロナウイルス感染症の感染者増加が続いており、日本でもオミクロン株の感染が確認されるなど、依然、予断の許さない状況が続きました。

こうした状況下、当社グループの中核事業である水産物卸売事業においては、海水温の上昇に起因すると思われる漁場の変化、赤潮による漁業被害等により一部天然魚種の不漁による価格高騰や、好調な海外マーケットを反映した水産物の高騰、コロナ感染症の影響による輸入製品の搬入遅延などがありましたが、業務筋向けの販売は徐々に回復し、量販店向け、高級品等の海外市場向けの売上は引き続き順調に推移しました。冷蔵倉庫事業は、在庫数量は減少しましたが入出庫の増加、業務効率化の効果もあり順調に推移しました。

その結果、当社グループの売上高は「収益認識会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日。以下「収益認識基準会計」という。）等の適用により94,509百万円（前年同期比34.1%減）となり、営業利益は1,890百万円（前年同期比38.9%増）、経常利益2,040百万円（前年同期比29.8%増）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は921百万円（前年同期比7.4%増）となりました。

セグメントの業績は以下の通りであります。

（水産物卸売事業）

当第3四半期連結累計期間においては、収益認識会計基準の適用により受託品売上、センター物流業務等の収入が減額となり、売上高88,776百万円（前年同期比35.4%減）、セグメント利益は930百万円（前年同期比96.5%増）となりました。

（冷蔵倉庫事業）

当第3四半期連結累計期間においては、収益認識会計基準の適用により配送取扱手数料売上が減額となりましたが、量販店向けの市販用商材を扱う物流センターが好調で推移した結果、売上高は4,965百万円（前年同期比5.9%減）、セグメント利益は586百万円（前年同期比24.5%増）となりました。

（不動産賃貸事業）

当第3四半期連結累計期間においては、前期における物件売却による賃貸収入減、修繕費の増加により、売上高は409百万円（前年同期比1.7%減）、セグメント利益は334百万円（前年同期比12.7%減）となりました。

（荷役事業）

当第3四半期連結累計期間においては、顧客への配送業務が増加したことにより、売上高は357百万円（前年同期比11.5%増）、セグメント利益は40百万円（前年同期比10.5%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

（資産）

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ現金及び預金の減少1,490百万円、受取手形及び売掛金の増加11,259百万円、商品及び製品の増加2,144百万円、有形固定資産の増加1,693百万円、長期貸付金の減少1,853百万円などにより、11,278百万円増の80,133百万円となりました。

（負債）

負債合計につきましては、前連結会計年度末に比べ支払手形及び買掛金の増加8,935百万円、短期借入金の増加1,650百万円などにより、10,205百万円増の51,815百万円となりました。

（純資産）

純資産合計は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上921百万円、剰余金の配当による減少239百万円、その他有価証券評価差額金の増加59百万円などにより、前連結会計年度末に比べ1,072百万円増加し28,317百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては2021年5月14日に公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,589	8,098
受取手形及び売掛金	10,762	22,022
商品及び製品	5,371	7,516
原材料及び貯蔵品	48	65
その他	590	438
貸倒引当金	△379	△535
流動資産合計	25,983	37,605
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	20,032	19,145
機械装置及び運搬具(純額)	1,835	1,640
土地	6,476	6,354
リース資産(純額)	711	679
建設仮勘定	—	2,967
その他(純額)	244	205
有形固定資産合計	29,300	30,994
無形固定資産		
のれん	56	35
借地権	2,101	2,101
その他	372	434
無形固定資産合計	2,530	2,571
投資その他の資産		
投資有価証券	7,702	7,507
長期貸付金	2,077	223
差入保証金	302	300
繰延税金資産	349	350
退職給付に係る資産	738	553
その他	408	415
貸倒引当金	△539	△387
投資その他の資産合計	11,040	8,962
固定資産合計	42,872	42,528
資産合計	68,855	80,133

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,507	18,442
短期借入金	4,000	5,650
1年内返済予定の長期借入金	1,826	1,648
未払金	146	232
未払法人税等	314	638
賞与引当金	252	112
役員賞与引当金	21	10
その他	2,564	3,060
流動負債合計	18,631	29,794
固定負債		
長期借入金	18,787	18,020
繰延税金負債	1,148	1,146
役員退職慰労引当金	14	11
退職給付に係る負債	1,639	1,421
長期末払金	193	211
その他	1,194	1,208
固定負債合計	22,978	22,020
負債合計	41,609	51,815
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,995	2,995
資本剰余金	1,348	1,348
利益剰余金	16,775	17,405
自己株式	△695	△695
株主資本合計	20,424	21,054
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,621	2,680
退職給付に係る調整累計額	101	97
その他の包括利益累計額合計	2,722	2,777
非支配株主持分	4,098	4,486
純資産合計	27,245	28,317
負債純資産合計	68,855	80,133

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	143,448	94,509
売上原価	134,336	84,743
売上総利益	9,112	9,765
販売費及び一般管理費	7,751	7,875
営業利益	1,361	1,890
営業外収益		
受取利息	5	8
受取配当金	178	197
持分法による投資利益	28	2
その他	155	87
営業外収益合計	368	296
営業外費用		
支払利息	140	133
その他	17	12
営業外費用合計	157	146
経常利益	1,571	2,040
特別利益		
固定資産売却益	307	202
補助金収入	—	112
特別利益合計	307	314
特別損失		
投資有価証券売却損	7	—
関係会社株式売却損	—	124
特別損失合計	7	124
税金等調整前四半期純利益	1,872	2,231
法人税等	632	847
四半期純利益	1,239	1,384
非支配株主に帰属する四半期純利益	381	462
親会社株主に帰属する四半期純利益	858	921

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	1,239	1,384
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	58	58
退職給付に係る調整額	10	△4
その他の包括利益合計	69	53
四半期包括利益	1,309	1,437
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	934	976
非支配株主に係る四半期包括利益	374	461

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識基準会計」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取る見込まれる金額で収益認識することといたしました。

これにより、水産物卸売事業における委託販売取引、帳合取引、センター物流業務の収入などにつきまして、従来は顧客から受け取る対価の総額を収益として認識しておりましたが、これらは代理人取引にあたるため、収益を純額(手数料相当額)で認識しております。また、従来は販売費及び一般管理費に計上しておりました、リベートおよび販売促進費の一部等を売上高から控除しております。

収益認識会計基準の適用については、収益認識会計基準84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。経過的な取扱いでは、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合に累積的影響があれば、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減することになっておりますが、当該期首残高に与える影響はありません。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は63,784百万円減少、売上原価は63,750百万円減少、販売費及び一般管理費は34百万円減少、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益につきまして影響ありません。また、収益認識会計基準等を適用したことにより第1四半期連結会計期間から発生するリベート等に係る「契約負債」につきましては、金額的な重要性が低いことから流動負債の「その他」に含めて表示しております。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法による組替えを行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額(注)2
	水産物 卸売事業	冷蔵倉庫 事業	不動産 賃貸事業	荷役事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	137,436	5,274	417	320	143,448	-	143,448
セグメント間の内部売上 高又は振替高	5	220	131	255	612	△612	-
計	137,441	5,494	548	575	144,061	△612	143,448
セグメント利益	473	470	382	36	1,363	△2	1,361

(注) 1. セグメント利益の調整額△2百万円は、セグメント間取引消去の金額であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額(注)2
	水産物 卸売事業	冷蔵倉庫 事業	不動産 賃貸事業	荷役事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	88,776	4,965	409	357	94,509	-	94,509
セグメント間の内部売上 高又は振替高	3	257	131	256	648	△648	-
計	88,779	5,222	541	614	95,157	△648	94,509
セグメント利益	930	586	334	40	1,890	△0	1,890

(注) 1. セグメント利益の調整額△0百万円は、セグメント間取引消去の金額であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の測定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方と比べて、当第3四半期連結累計期間の「水産物卸売事業」の売上高が63,297百万円減少し、「冷蔵倉庫事業」の売上高が486百万円減少しております。なおセグメント利益に与える影響はありません。